

2025 年 8 月 1 日
埼玉県作業療法士会
教育部

埼玉県作業療法士会 現職者共通研修 事例報告のまとめ方について

事例報告の目的

事例報告の過程を理解し、発表する。
事例報告を実施するに当たり、まとめ方、資料作成、発表の仕方を学ぶ。
事例報告において、倫理的配慮に基づき発表する。

事前準備

発表同意書は県士会に提出不要ですが、口頭での承諾、個人が特定できない等、倫理的事項に十分配慮してください。職場の規定がある際はそちらに従ってください。
また職場の先輩等に依頼して、必ず相談・指導を受けるようお願いいたします。

発表方法

ZOOM を使用したオンラインでの事例報告会となります。
パワーポイントを使用し、発表時間 10 分。パワーポイント操作は発表者に行っていただきます。

スライド作成時のお願い

聴講者に「わかりやすく」伝えることを意識して作成ください。
スライド内に文字が多く、文章が長いと、伝わりにくくなります。箇条書きや図なども活用ください。
スライド枚数に制限はありませんが、10 分で発表できるようにしてください。
動画や写真は使用可能です。しかし個人が特定できないように加工・編集をお願いいたします。

記載内容 下線部の10項目を基本に記載ください。

タイトル

聴講者に目的や内容が伝わるようなタイトルの工夫をお願いします。

報告の目的

事例報告の目的を記載ください。

具体的には、どのような対象者に、どのような方法を用いて、どのような結果に至ったのか、という点を押さえていただくと相手に伝わりやすくなります。

事例紹介

年齢、疾患名、既往歴、現病歴、作業療法の対象となるまでの経緯、社会的背景など、本事例の作業療法方針に関連する個人因子と環境因子についてまとめてください。

作業療法評価

対象者の標的問題を中心とした評価を記載し、介入前の障害像、特に報告の目的に関わる主要な問題点などに関しては必ず入れてください。

介入の基本方針

作業療法介入の基本方針について、目標あるいは目的達成のために、どのような方針で作業療法を進めたのかをまとめてください。

作業療法実施計画

介入の基本方針に基づき、時期や段階別に、実施内容、実施形態（個別・集団・訪問など）、実施頻度（1回時間、週あたり回数など）、実施期間など、作業療法士が「何を手段として」「どのように」関わったのかが判るように発表してください。

また作業療法に用いた作業活動（課題）の選択理由、利用・活用方法、指導・援助の方法など、目的達成のためにどのような意図をもって作業療法を実施したのかが判るように説明してください。

介入経過

「どのような支援（介入）経過で」「どのような変化が得られたのか」をまとめてください。経過が長い、あるいは介入項目が多い場合は、期間をいくつかの「期」に分け、介入項目ごとに整理するなど行いましょう。

結果

介入の基本方針、作業療法実施計画、介入経過との整合性を勘案し、介入によって得られた評価指標（数値）の変化、あるいは作業療法の介入によって生じた対象者の生活（行動）上の変化などを具体的にまとめてください。

考察

「結果」で述べた対象者の変化に関する解釈を記載してください。作業療法介入は対象者の標的問題にどのような変化（効果）をもたらしたのか否か、そしてそれらはどのような理由によるものか等を、評価指標の変化との関連から考察してください。そして今回実践

した作業療法は、対象者の生活にどのような変化をもたらしたのか、対象者にとっての意味や価値という視点、活動や参加、生活の質といった視点についても可能な限り考察してください。

文献

本文中で言及もしくは引用した文献とその箇所について記述してください。文献リストの表記の形式は、以下を参考にしてください。

- 1) 岩間孝暢, 原 英修, 清水 一: 座位保持機能未獲得な重症心身障害児の姿勢と感覚遊び刺激に対する反応. 作業療法 11: 358-365, 1992.
- 2) 中村隆一, 斉藤 宏: 基礎運動学. 第3版, 医歯薬出版, 東京, 1987.
- 3) 米倉豊子: 内科的疾患に対する作業療法. 原 武郎, 鈴木明子・編, 作業療法各論 (リハビリテーション医学全書 10), 医歯薬出版, 東京, 1978, pp.393-406

以上